



# 2007信越大会(144MHz)での 私の判断と行動

2007年6月10日(日)  
於 菅平  
安島 巧

磁北



縮尺 1:15,000  
等高線間隔 5m



ARDF信越地方大会  
2007年6月10日

# 初めに

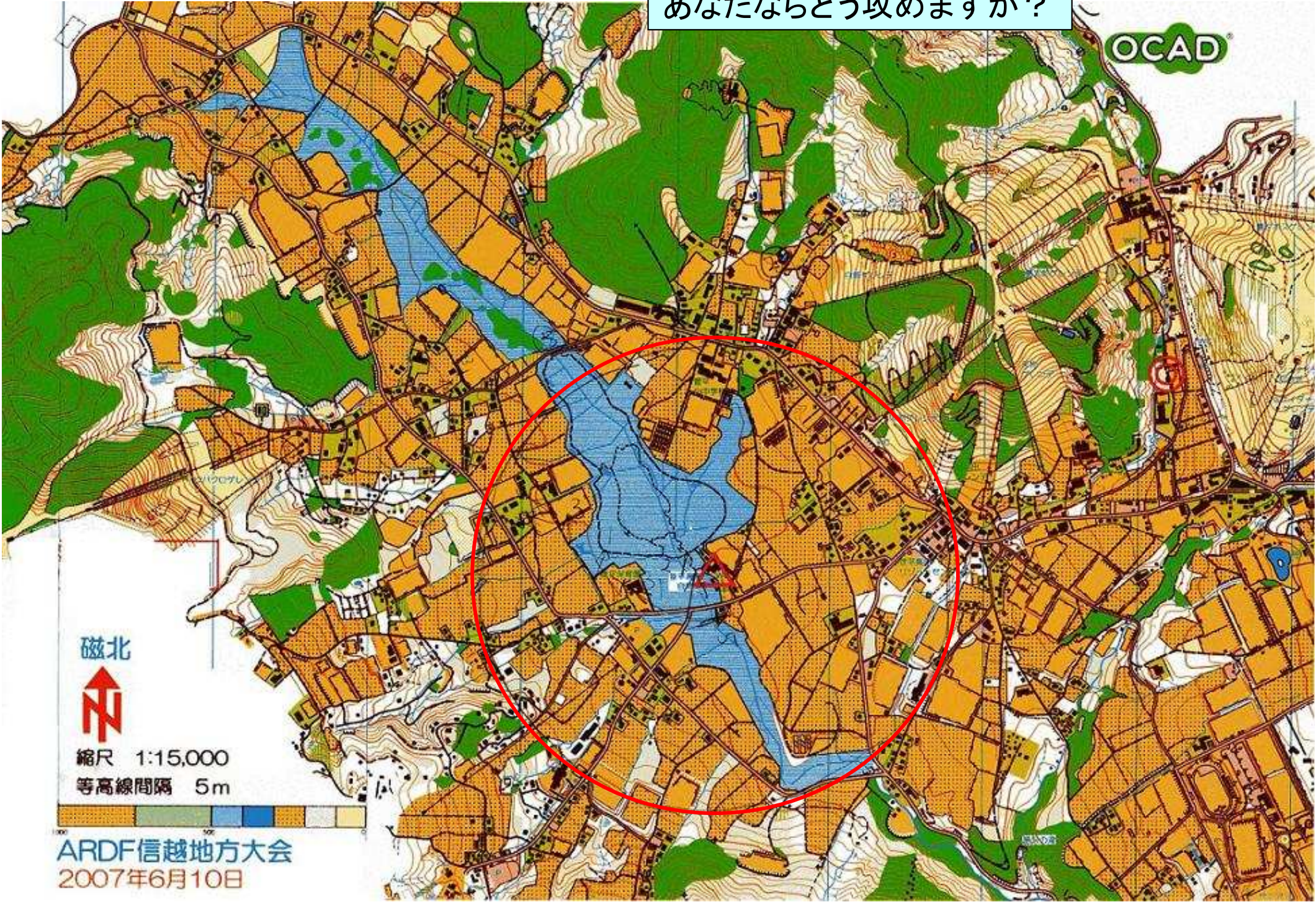
このドキュメントは、ARDF競技に参加したときに、私がどういう場面でどういう判断をしたかを記憶を頼りに記録したものです。

従って、「こうすべき」という正解を記載したものではありません。

ARDFに参加した一競技者の話として、主に初心者の皆さんの役に立てられればと思って作成いたしました。

あなたならどう攻めますか？

OCAD®



磁北



縮尺 1:15,000  
等高線間隔 5m



ARDF信越地方大会  
2007年6月10日

# ①「スタート地点にて地図読み」

- ・右下のエリアは前日のトレインであった(ゴールはG)
- ・なぜ、ゴールの位置をずらしているのか、運営上もGの方が便利のはず。予想は、◇車両通行量が多い茶色の道を通したくなかった。
- ◇G付近にTXを設置している。

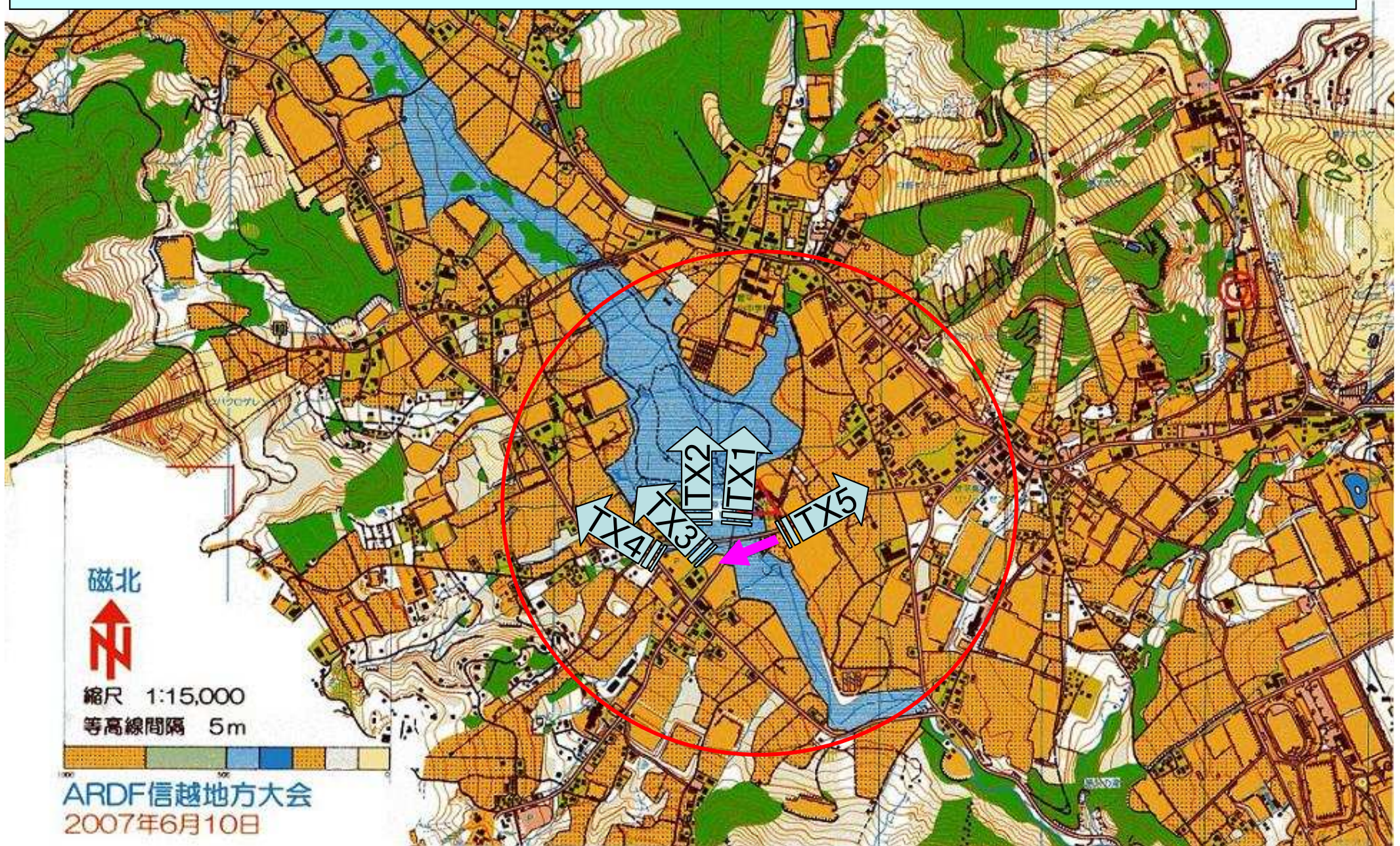
私は後者の可能性が高いと思った。

- ・山の頂上にTXが設置される噂がしきりに流れていた。(菅平のお約束?)
- ・よって、青点線の回り方に決めた。スタート地点は、菅平で一番標高が低い場所。今回は思いやられる。



## ②「探索開始地点」

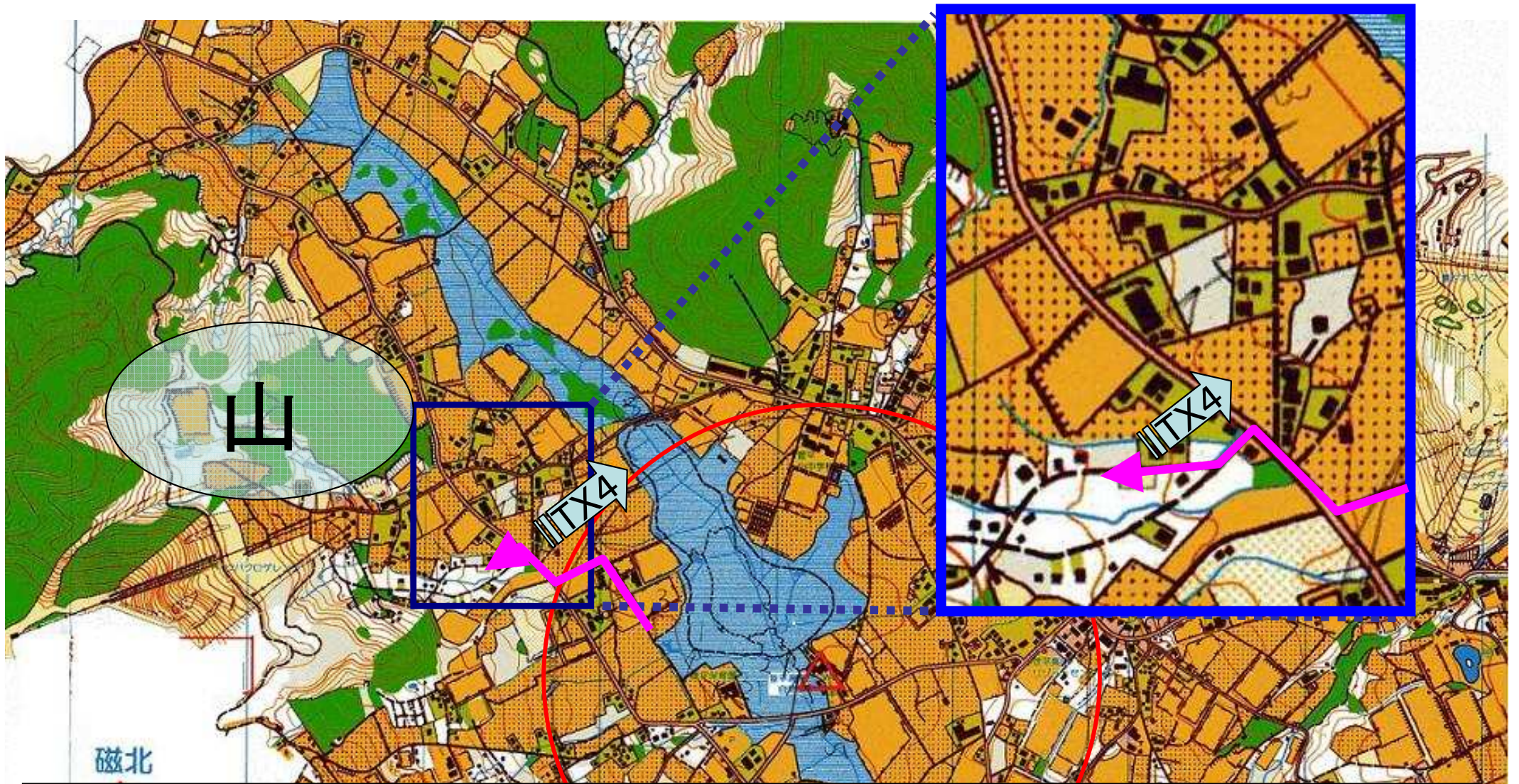
地図上、左方向へ進みながら測方。まわる順は4, 3, 2, 1. TX5はゴールより南にある可能性も結構高い。今日はTX5をおまけに拾うのは無理だろう。



### ③「北行」

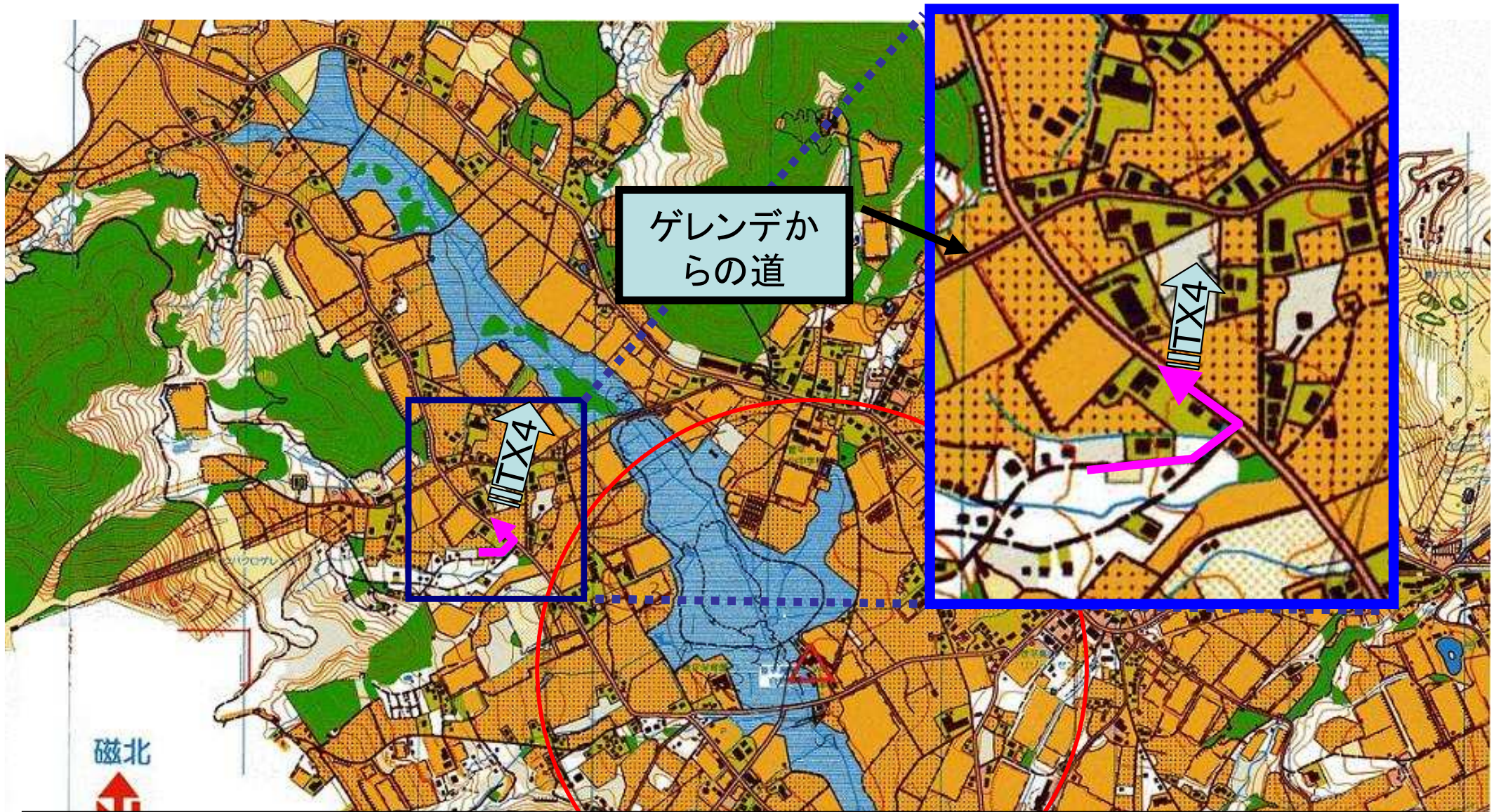
750m円内だが、山に近づきたくないので、狭い道を北上。反射によるフェージングが多少あるが、TX1は全くフェージングなく安定受信される。これが噂の山頂TXか。TX4はツバクロゲレンデ方向。見ると、人も入っていている。





#### ④「TX4反転」

TX4の時刻となった。強くなっていることを期待していると、なんと反対方向。なんてこった。なぜだ？弱くなったということは、何か障害物が入ったということ。地図を見てみる。左上の山が考えられる。この山の陰に入ってしまったので、弱くなったのだ。となるとTX4は山の向こう側か。右上から到来している電波は右上の山の反射であろう。(結果的にこの判断は間違い)



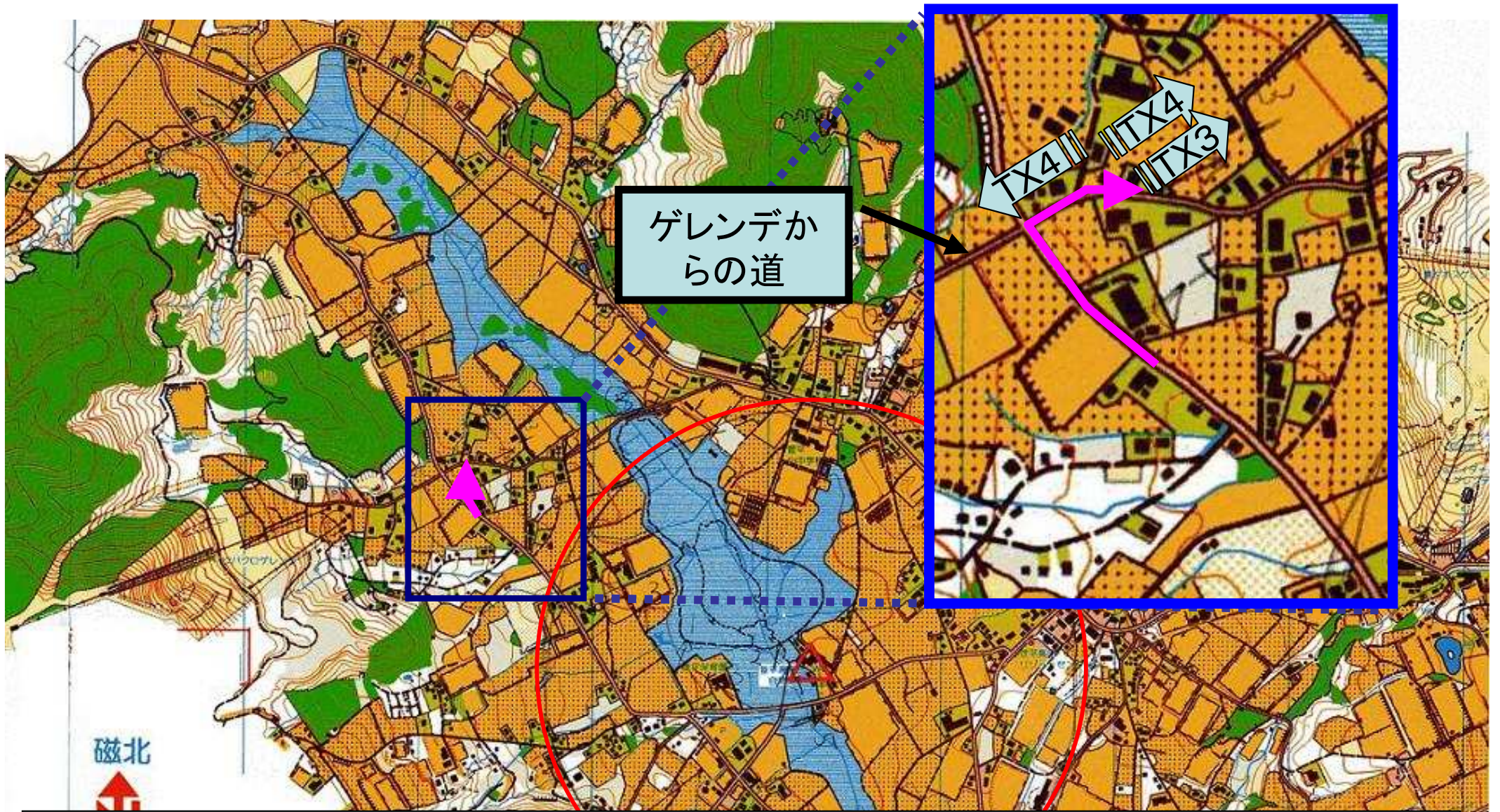
ゲレンデからの道

TX4

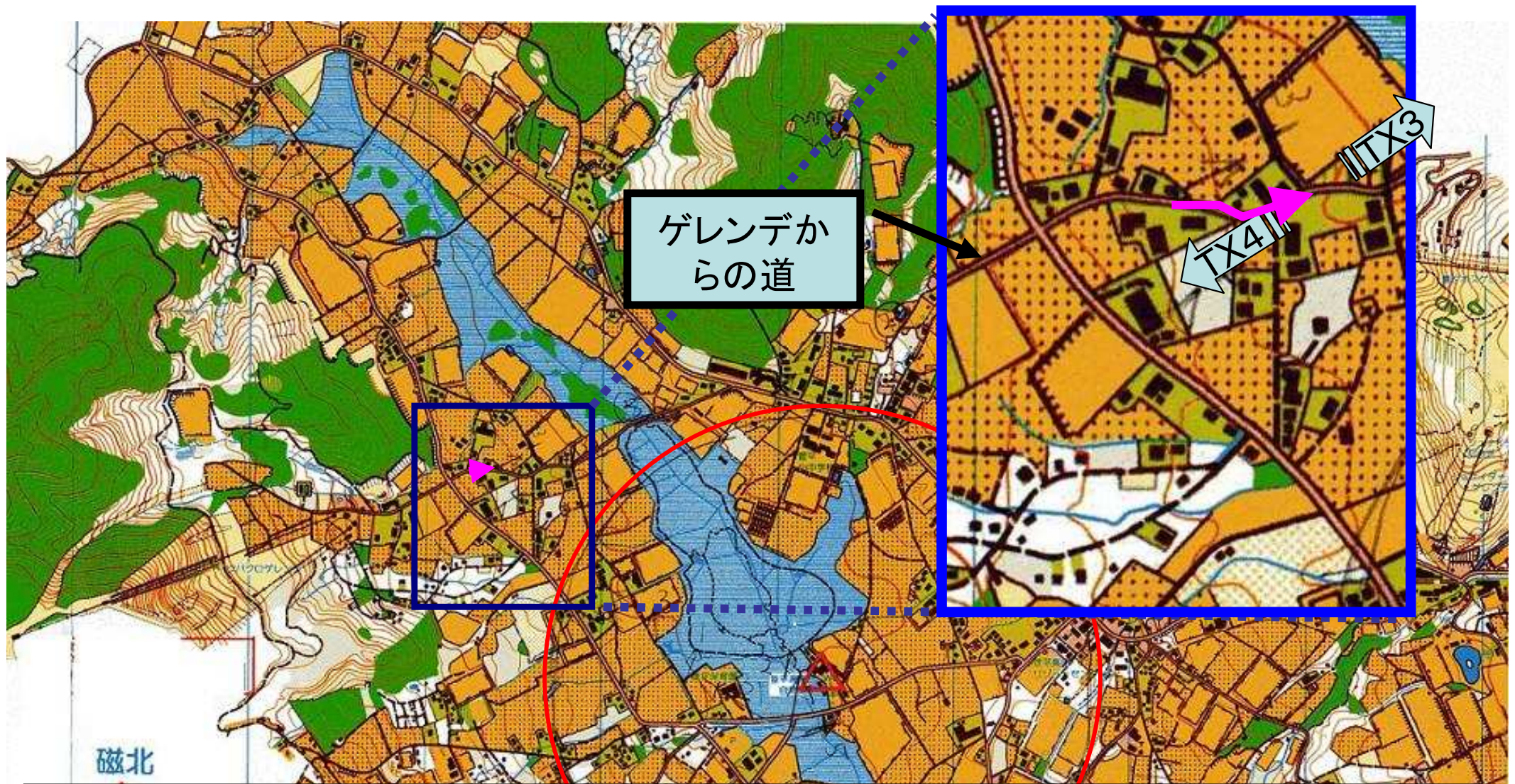
TX4

⑤「TX4反転2」  
下の道に戻ることにした。ゲレンデからの道を大勢の人たちが駆け下りてくる。表情は明るい。上にTXがある可能性はあるが...





⑥「坂を下る」  
坂を下った。TX3が近づいてくる。TX4はなんと前後にでる。しかし、わずかに北東方向が強い。従ってさらに下る。



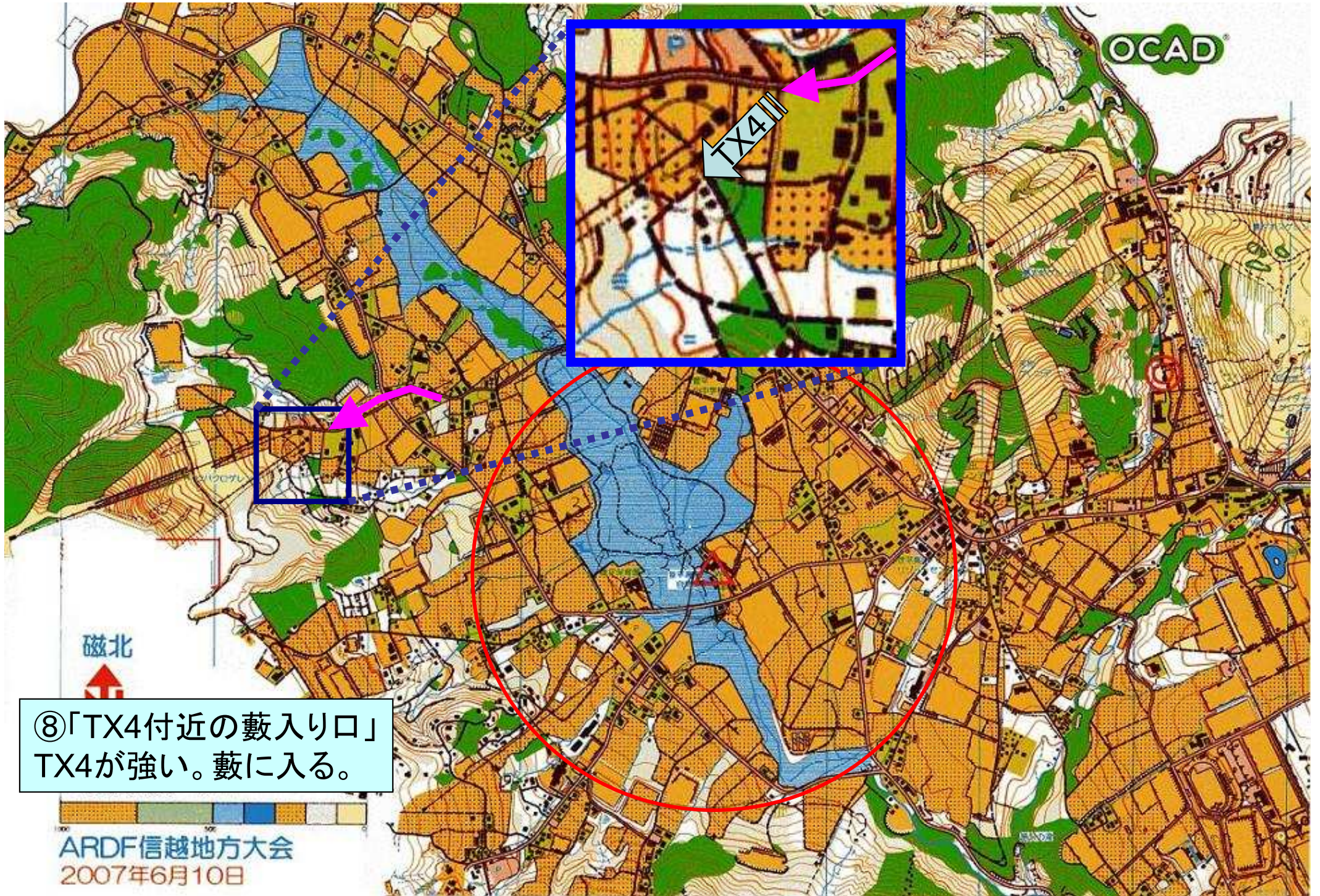
ゲレンデからの道

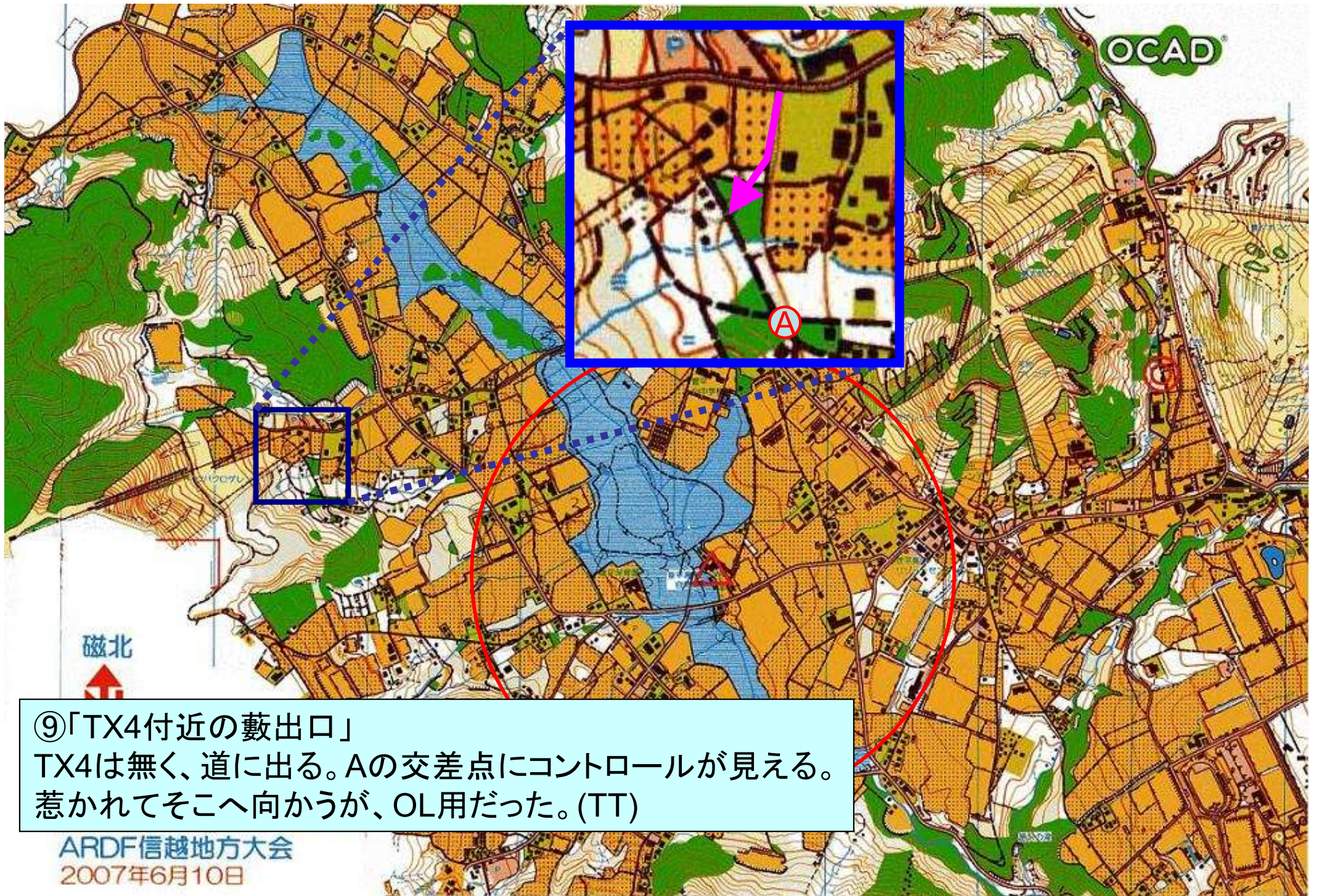
TX3  
TX4  
TX1

⑦「坂を下る2」

TX3はフェージングが強い。しかし強度からいって、前方の林に中と推定。TX1は強度も方位も安定しており、フェージングが全くない。TX2はいつもTX1と同じ方向だが、弱い。もしかしたら、TX1の山の向こう側か？

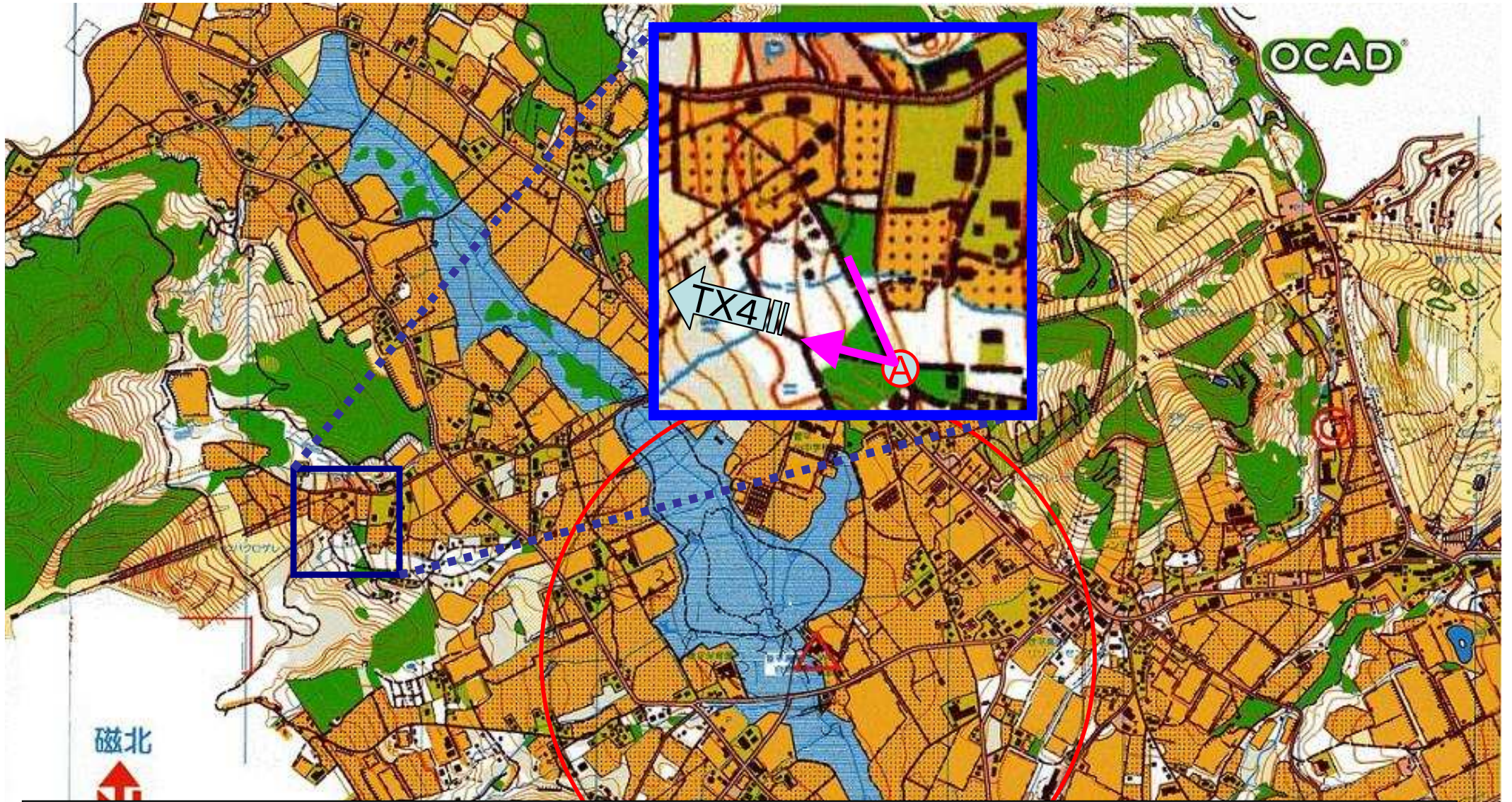
TX4は、やっと出た。山方向。山から離れたので正しく測方できたのであろう。気を取り直して、下ってきた道を登る





⑨「TX4付近の藪出口」

TX4は無く、道に出る。Aの交差点にコントロールが見える。  
惹かれてそこへ向かうが、OL用だった。(TT)



⑩「TX4真下」

TX4が鳴く。なんてこった。すぐ上だ。最初の道をそのまま進んでいけば、すぐだったのに。

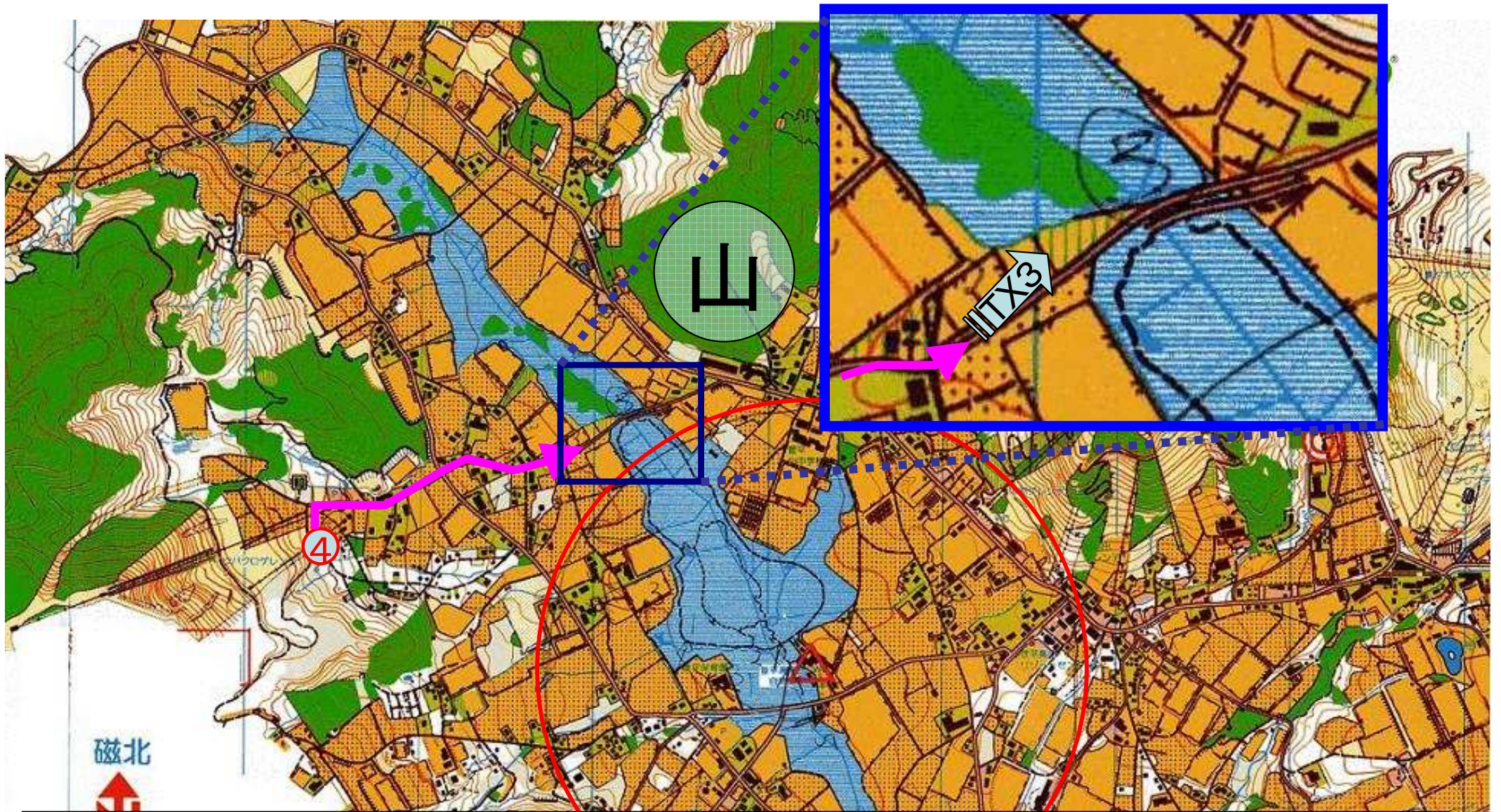


ARDF信越地方大会  
2007年6月10日



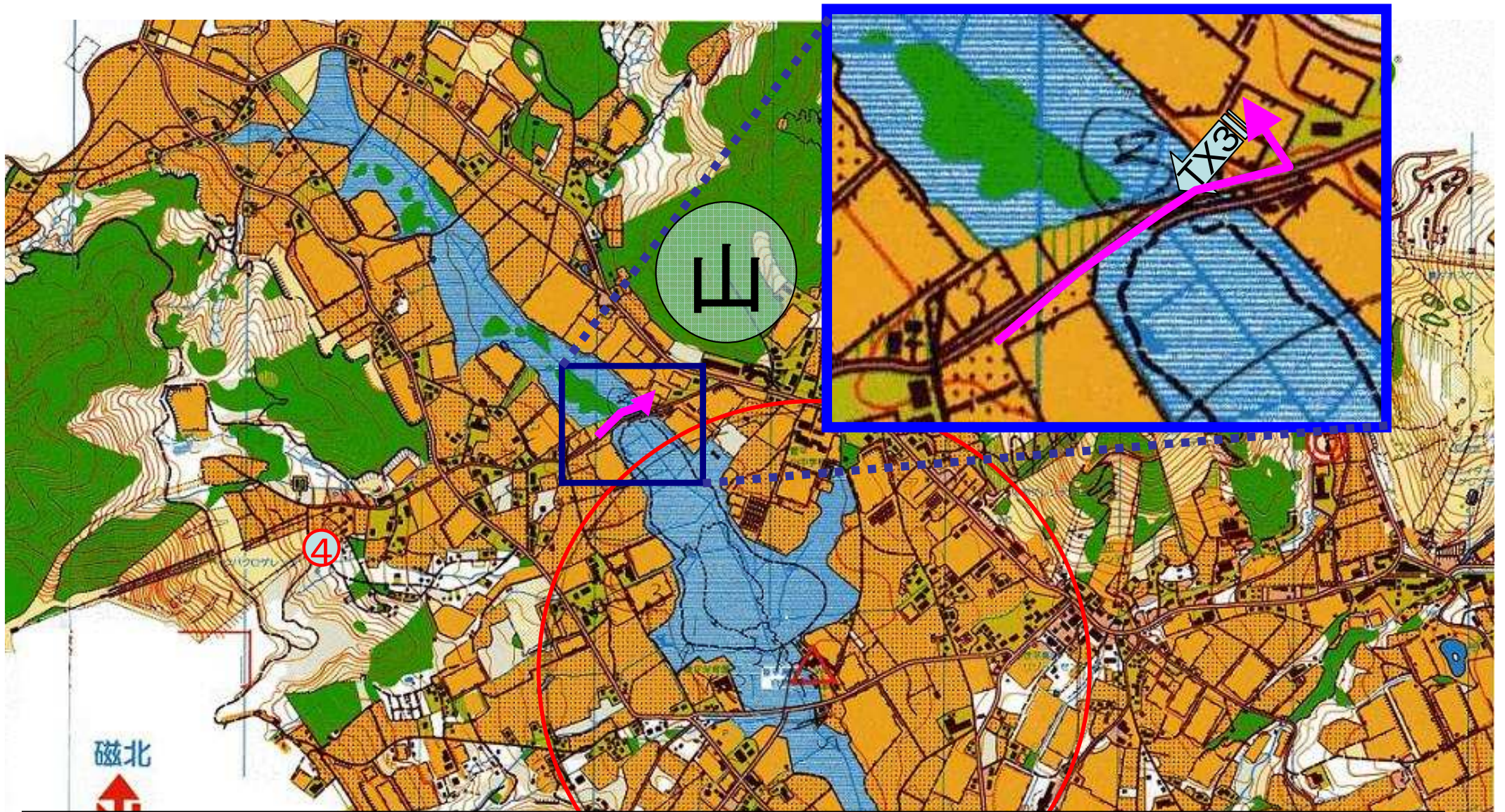
⑪「TX4」  
TX4上の道へ出てがけ下をのぞくとTX4があった。

ARDF信越地方大会  
2007年6月10日



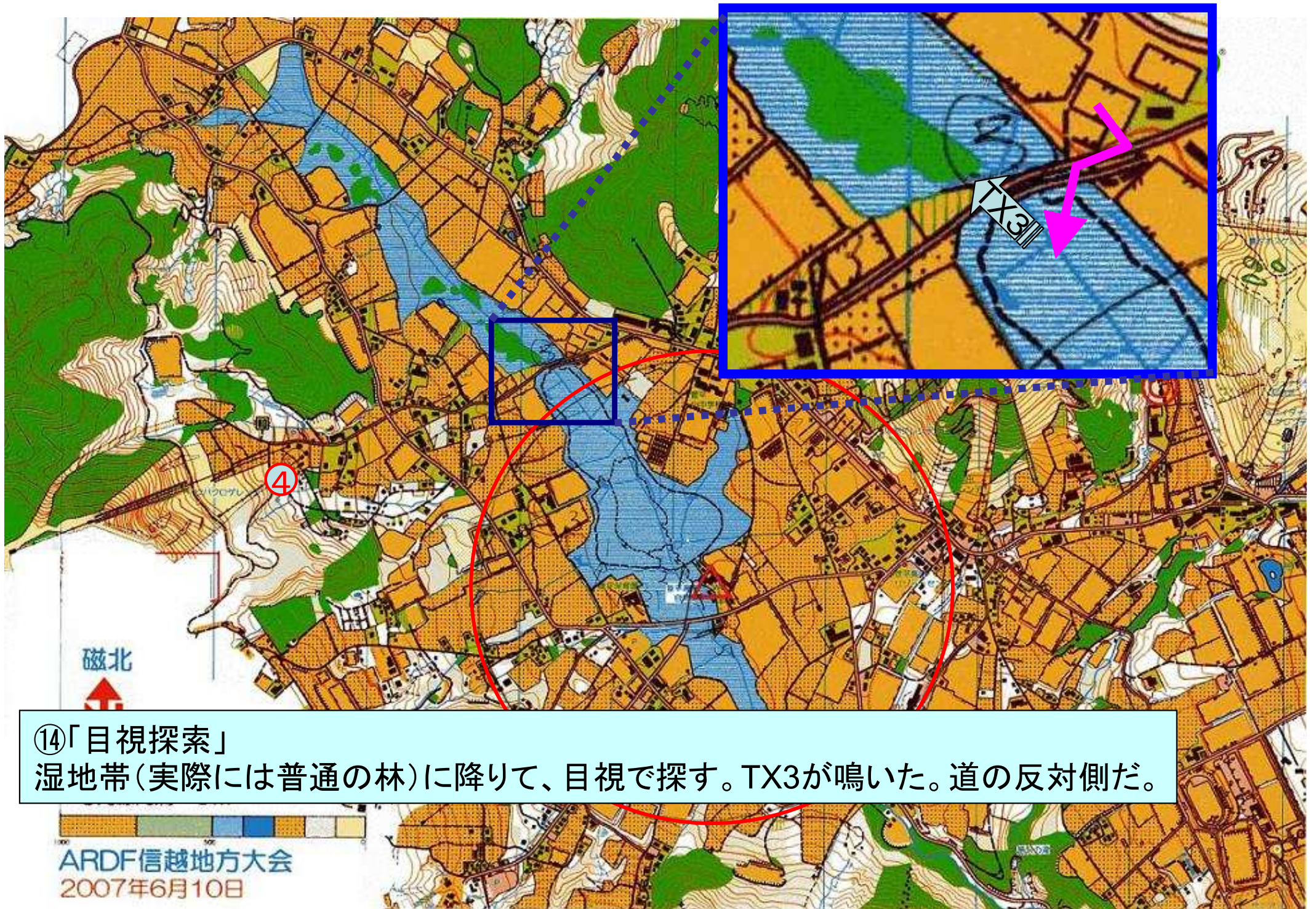
⑫「TX3付近に下りてくる」

坂を下りながら、なぜあの奇怪な現象がおきたのかを考えてみる。TX3にしろTX4にしろフェージングが激しい。TX4はなんでもない普通の斜面上に設置してあった。斜面の反射との合成で、激しいフェージングがおきるのか？するとTX3は実はもっと先の山斜面か？

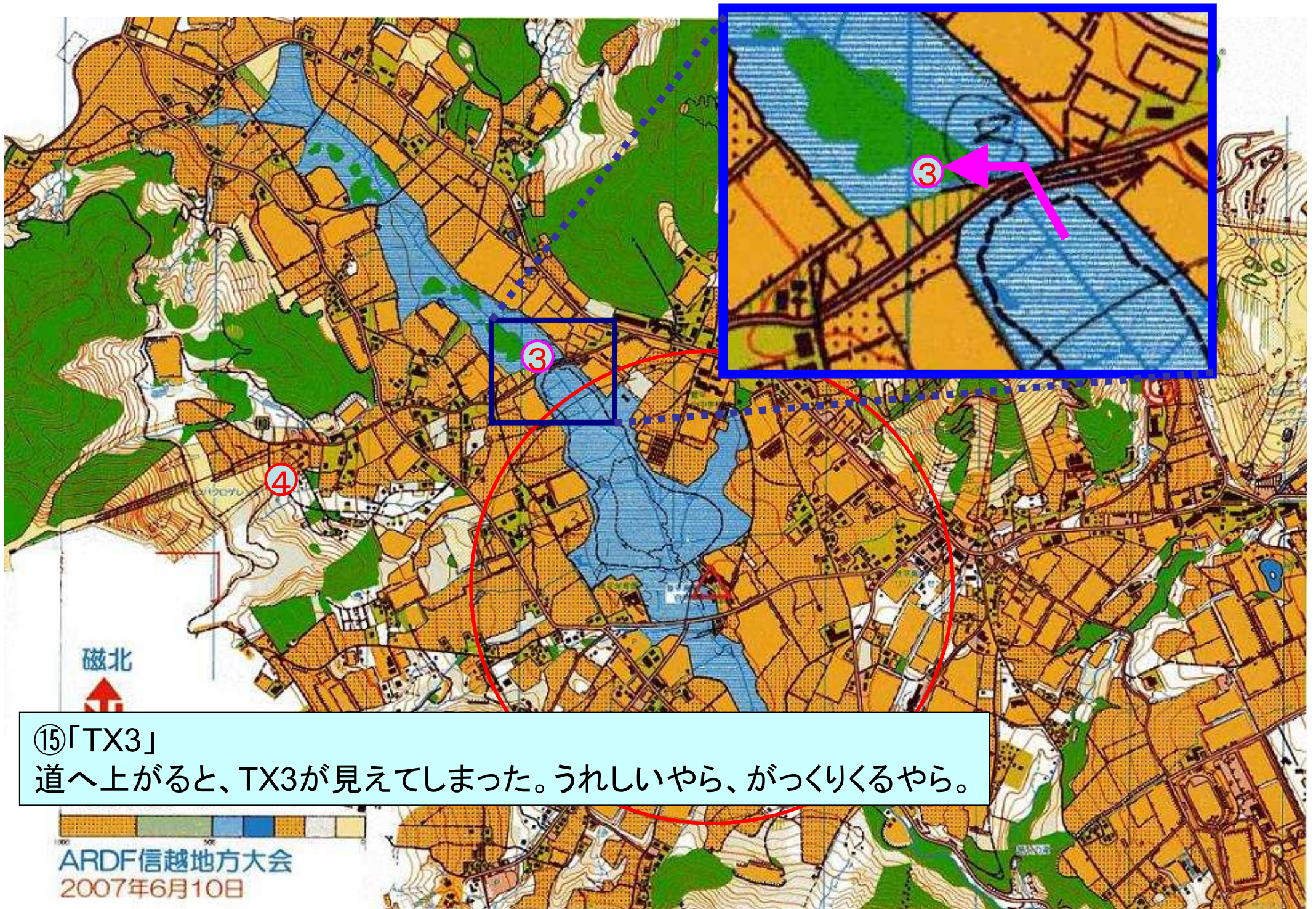


⑬「山方向か、下か」  
右上の山斜面にTX3があることを想定していたが、反対方向(行き過ぎ)とでた。本当か？  
強いことは強いが、信じられない。

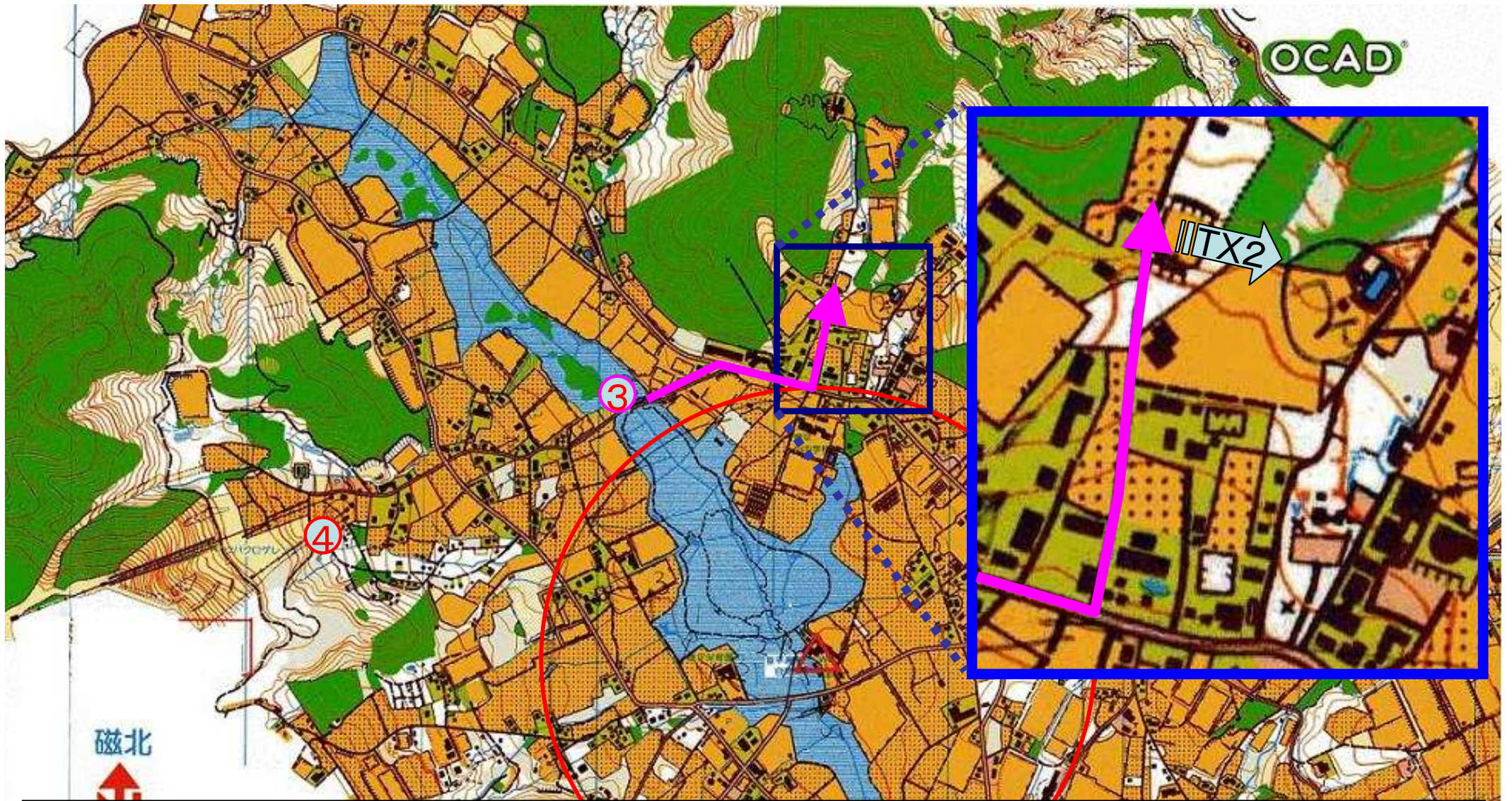




⑭「目視探索」  
湿地帯(実際には普通の林)に降りて、目視で探す。TX3が鳴いた。道の反対側だ。



⑮「TX3」  
道へ上がると、TX3が見えてしまった。うれしいやら、がっくりくるやら。



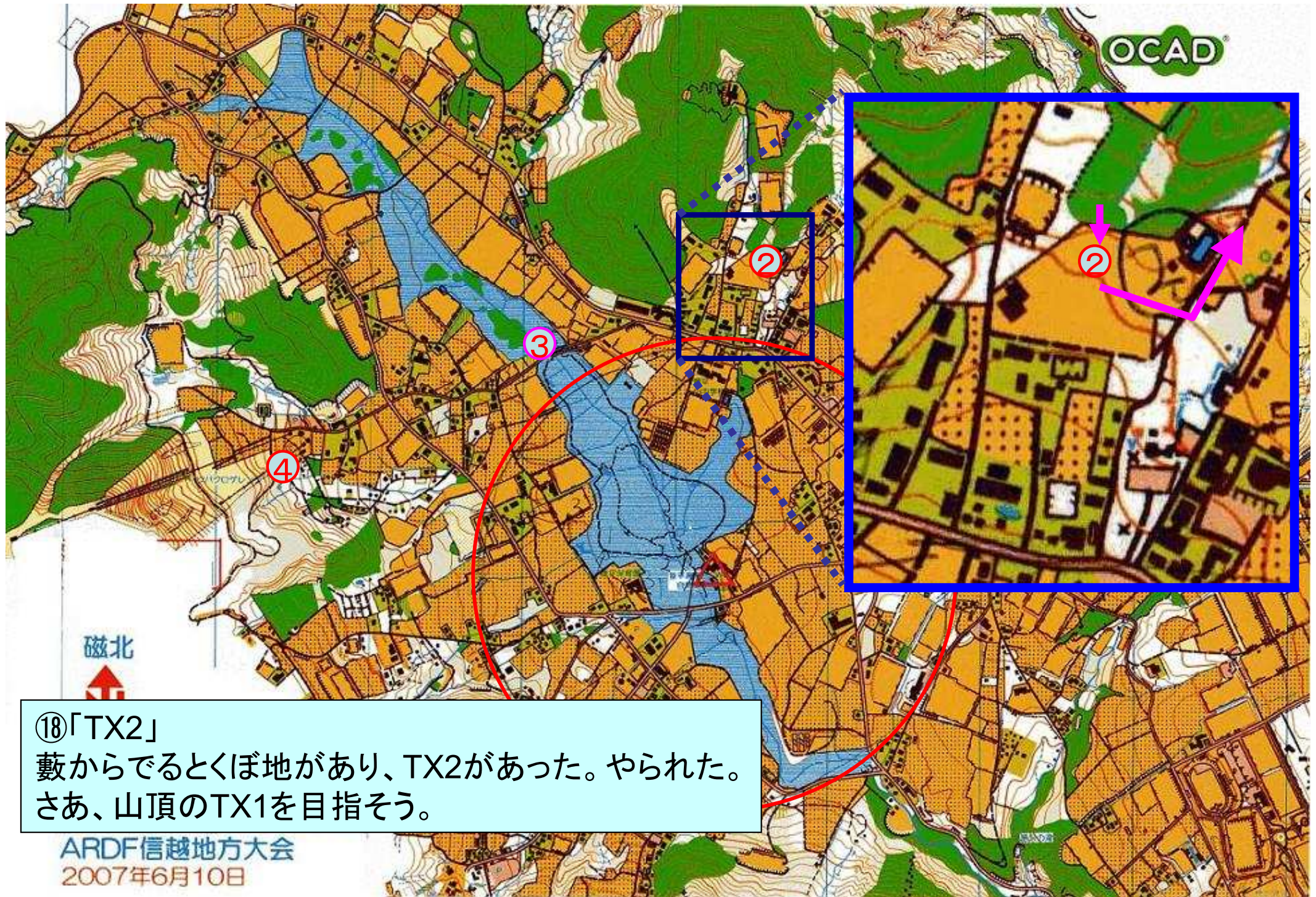
⑩「山を登る」

TX2は山方向なので、山へ登る。でもあまり上るとTX1に近づいてしまう。近いのか遠いのかよくわからない。TX2が鳴く。東の藪の中だ。

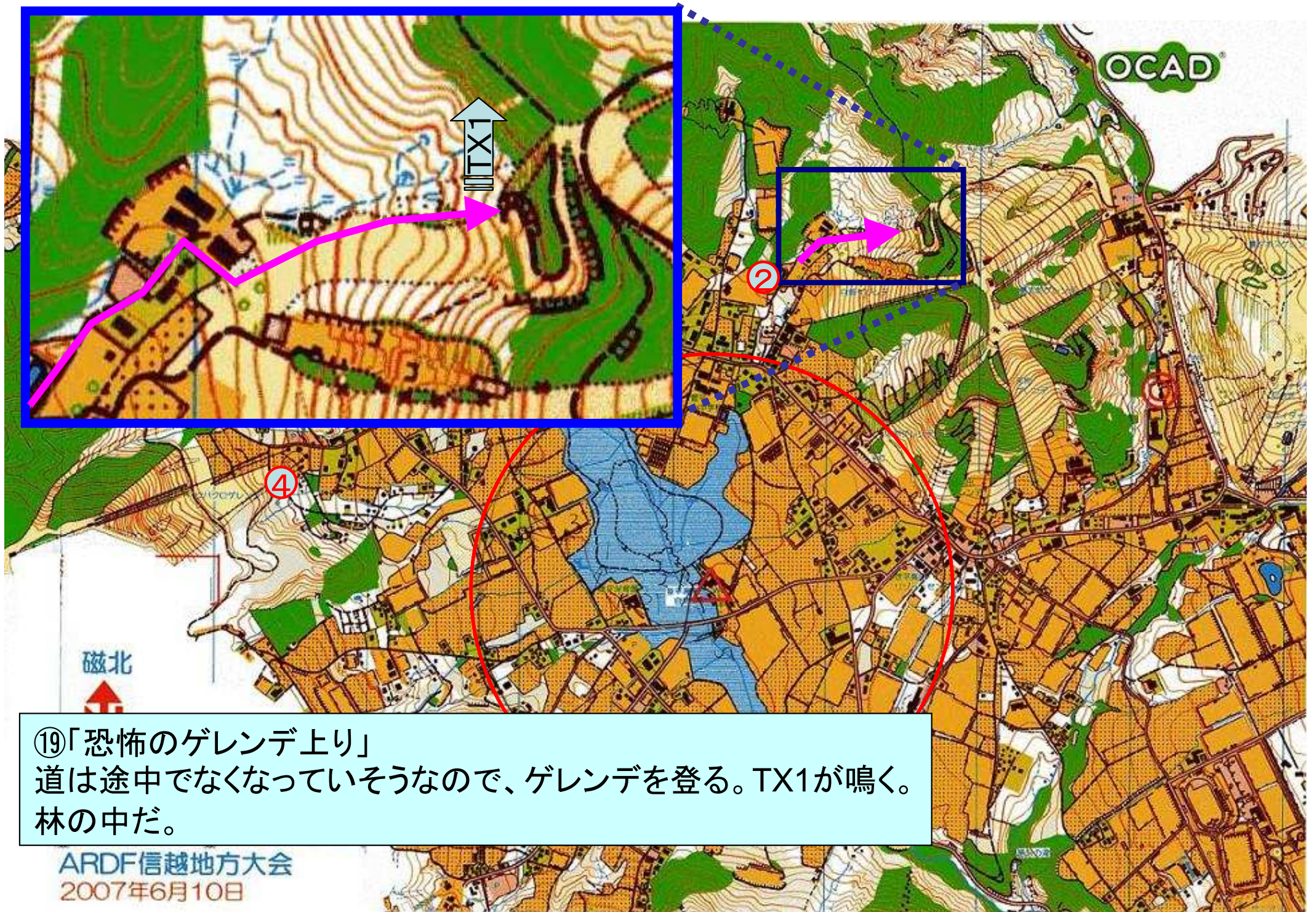


⑰「藪に入る」

藪に入るが、TXはない。かなり進むのが困難。そのうちTX2が鳴く。明るくなっている方角だ。



⑱「TX2」  
藪からでるとくぼ地があり、TX2があった。やられた。  
さあ、山頂のTX1を目指そう。

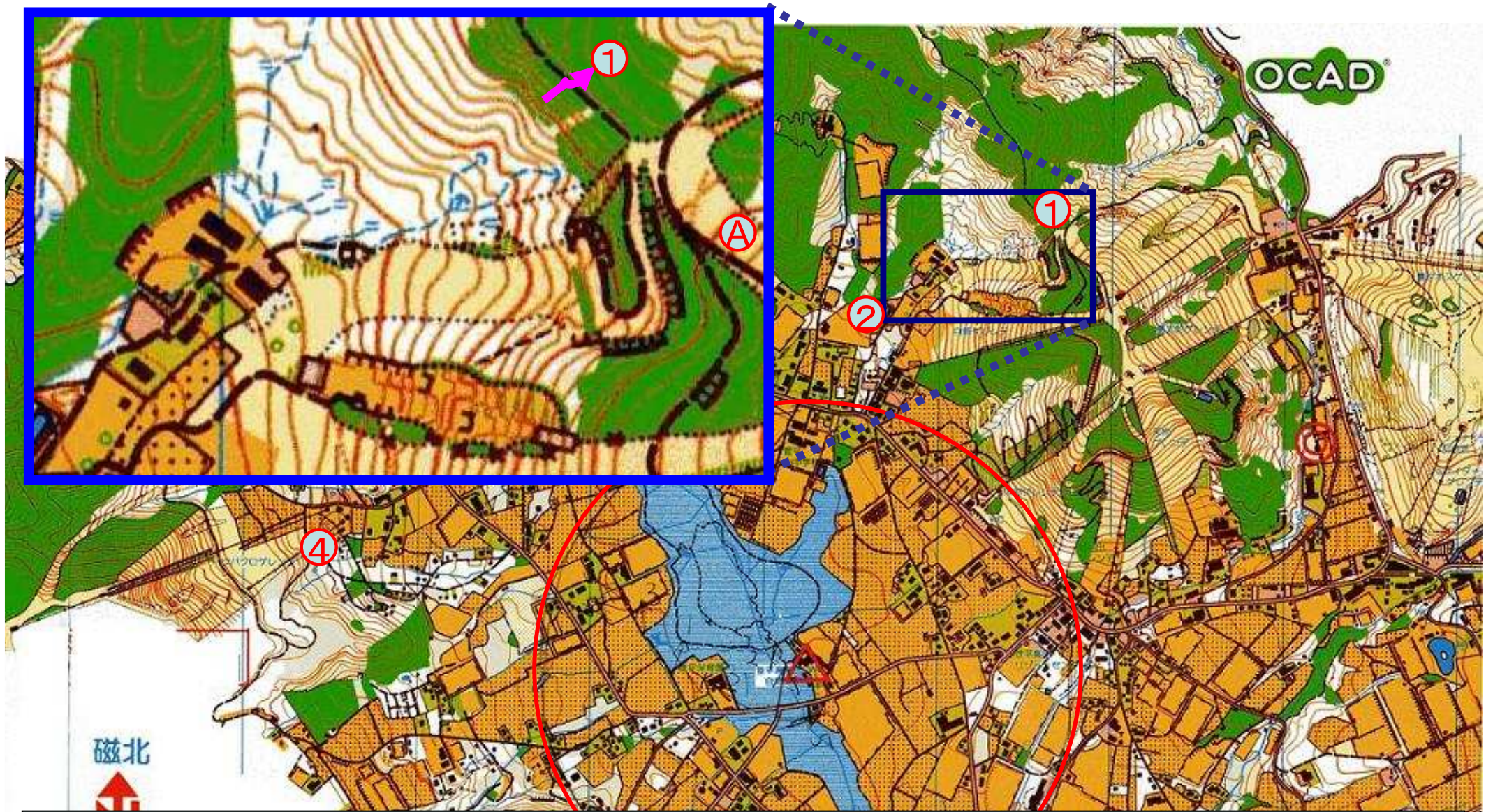


⑱「恐怖のゲレンデ上り」  
道は途中でなくなっていそうなので、ゲレンデを登る。TX1が鳴く。  
林の中だ。



## ⑳「山頂の林」

林に入っていくと、何人か下から上がってくる人にあう。林というか藪を掻き分け進む。疲れのせいで、頭は何も考えていない。TX1が鳴く。上だ。近い。



(21)「TX1」

そのまま藪を直進して、尾根道を横断してTX1をゲット。

GOALまでは一本道だ。しかし、頭が働いていない状態で、自分の位置をAと間違えていた。





## (22)「帰り道」

少し北上すれば、東方向への下り道になるはずだった。  
しかし、行けども行けども右にカーブしない。しかも永遠に続く上り。  
地図をよく見て間違いに気づく。



OCAD

1

2

3

4

磁北

(23)「GOAL」

TX5の方向を見ながらGOALへ向かう。正直、TX5の方向の確信はもてなかった。



ARDF信越地方大会  
2007年6月10日



## ■「反省」

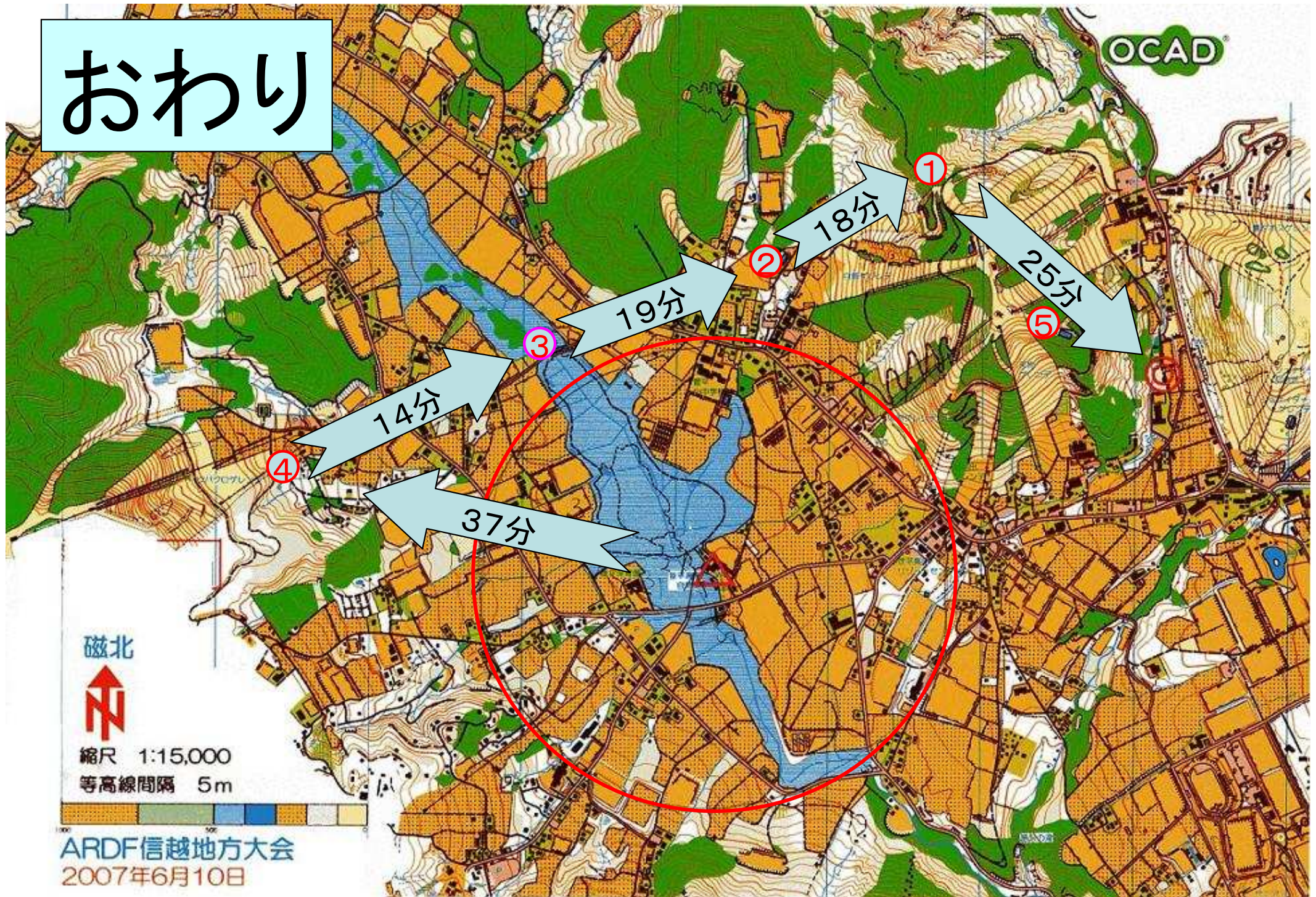
私のようなARDFerはミスコース・ミスジャッジは致命的。今回はそれが多発した。しかし、前半の測方結果についてはどう反省すればよいかわからない。反射の影響とってはいるが、他の競技者で反射を口にする人は少ない。あるOMが「ここは岩が多いので反射が大きい」とおっしゃっていたくらいだ。

いつもと違うことをしたのは、ATTの位置だ。私は通常2箇所しか使わないが、今回は中途半端な位置を使った。それは、ATTを調整すると、信号強度の違いがわかるところがあったからだ。しかし、それが原因とは思えない。

今回のセッティングは、くぼ地設置などの特殊設定があり、いろいろと経験が積める大会ではあったが、少なくとも私の頭では、一回の競技では吸収しきれないほど、奥深い設定であった。

# おわり

OCAD®



磁北



縮尺 1:15,000  
等高線間隔 5m



ARDF信越地方大会  
2007年6月10日